



お元気ですか！
志村 たかよし です

第779号 2016年2月28日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

大型開発優先か区民生活優先か 「中央区基本構想審議会」スタート

**会長に竹内誠氏（江戸東京博物館館長）
会長代理に市川宏雄氏（「東京一極集中」論者）**

「中央区基本構想審議会」の第1回会合が2月9日に開かれました。今後20年間の中央区の方向性が議論されることとなります。

審議会は、有識者や公募区民、地域団体の代表者、区議ら38人（裏面参照）で構成されています。

区長の諮問を受け、10月の「中間まとめ」を経て来年2月に答申するスケジュールです。

第1回会合では、事務局から、24年には20万人を突破するとの推計が報告され、今後の検討課題として「人口増加に伴う行政需要の



私が18年間働いていた築地市場＝2010年撮影

増大」「2020年東京五輪」

「安全・安心への意識の高まり」「築地市場移転など新たな社会潮流への対応」などが示されました。

40年代にタイムスリップと皮肉も

諮問にあたっての挨拶で区長は、2020年東京五輪を好機に「東京一極集中のまちづくり」の推進を強調しました。

この区長挨拶に関して金井利之東京大学大学院法学政治学研究所教授は「昭和40年代にタイムスリップしたような景気の良い話して、おどろいた」と皮肉の込められた発言がありました。

「東京一極集中」でさっそく火花

会長代理となった市川宏雄治治学専門職大学院院長は、区長が掲げた「東京一極集中のまちづくり」を高く評価し、全体の方向性を押しつけるような発言をしました。

私が「東京一極集中は、賛否が分かれている。本審議会では、東

京一極集中の是非も含めて審議する必要がある」と批判したところ、市川氏は「一極集中した現状をふまえた議論が必要」と反論しました。まさに、第一回目から「火花が散った」格好です。

中西史東京学芸大学理科教育学分野講師から「（20万人という）人口想定が気になる」との意見があり、金井委員からは「都心部に多くの人がいることが前提の基本構想。中央区は人口が減っていても経済の中心になってきた。定住人口にとらわれない議論を」との発言がありました。

私は「区の人口は開発をコントロールすれば調整できる。20万人の想定にとらわれず、区の適正人口は何人かを議論することも必要」と発言しました。

榊原美樹明治学院大学社会学部講師からは「人口は増えているが、経済的格差、貧困はどうなんだろうか」という疑問が出されました。

公募区民の委員からは「下の子が保育園に入れず待機児になっている」「住んで良かったという中央区にするため率直に訴えたい」などの発言がありました。

次回は4月27日で三つの専門部会に分かれて議論が行われます。

中央区基本構想審議会委員名簿

区分	氏名	役職
学識経験者 (8名)	竹内 誠	江戸東京博物館館長
	市川 宏雄	明治大学専門職大学院長
	リシャール コラス	シャネル株式会社代表取締役社長
	和気 康太	明治学院大学社会学部教授
	中西 史	東京学芸大学理科教育学分野講師
	金井 利之	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	伊藤 香織	東京理科大学理工学部教授
	榊原 美樹	明治学院大学社会学部講師
区議会議員 (7名)	鈴木 久雄	中央区議会議長
	石田 英朗	中央区議会副議長
	磯野 忠	中央区議会自由民主党議員団幹事長
	田中 広一	中央区議会公明党幹事長
	志村 孝美	日本共産党中央区議会議員団幹事長
	渡部 博年	民主党区民クラブ幹事長
	青木 かの	維新の党幹事長
公募区民 (5名)	立川 智誉	(京橋地域)
	中山 華子	(日本橋地域)
	梶原 寸真子	(日本橋地域)
	松本 紗智	(月島地域)
	今井 健	(月島地域)
公共的団体の構成員 (15名)	石田 善計	京橋地域町会連合会会長
	湧井 恭行	日本橋地域町会連合会会長
	鹿島 新吾	月島地域町会連合会会長
	古屋 勝彦	中央区文化・国際交流振興協会理事長
	中野 耕佑	中央区社会福祉協議会会長
	小林 高光	中央区シルバー人材センター会長
	三田 芳裕	中央区観光協会副会長
	松岡 肇	中央区商店街連合会会長代行副会長
	森山 照明	中央区工業団体連合会会長
	三田 富貴子	中央区女性ネットワーク会長
	市川 尚一	中央区医師会会長
	大辻 正高	日本橋医師会会長
	山本 泰人	中央区体育協会会長
	岩崎 滋	中央区PTA連合会会長
大北 恭子	中央区婦人学級連絡会代表	
区職員 (3名)	齊藤 進	中央区副区長
	吉田 不曇	中央区副区長
	島田 勝敏	中央区教育委員会教育長

(合計 38名)

(敬称略：順不同)

「意見」「要望」など、お気軽に「連絡ください」(03-6390-0000)